風土会

会　報　（2012 年 6 月）No.39

文責　柴田　悦子

第 39 回学習会を，平成 24 年 6 月 15 日（金）19：00～20：00 福岡市教育センターにて行いましたので報告いたします。

第 39 回の内容

講師　重枝一郎先生
○　いじめの予防と人間関係づくり
○　いじめのロールプレイ（演習１）
○　GWT「色えんぴつ忘れちゃった」（演習２）

いじめの予防と人間関係づくり

1　いじめの問題

どこから取組？・・・→言葉の問題

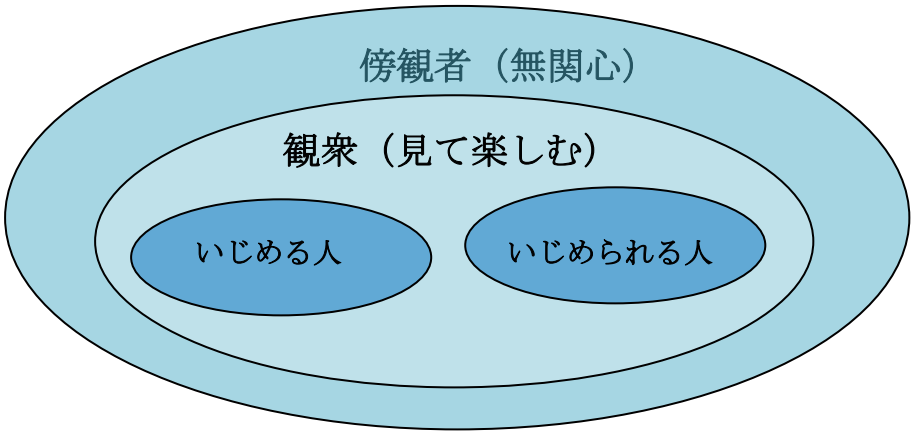
①反射的（おもしろい），伝染的
②人から言われてうれしい言葉
　なかなか出てこない

2　いじめ

相手が嫌がることをする・言う

いじめにつながっていく・・・けんか，いたずら，悪ふざけ，冗談，いやがらせ，からかい
犯罪・・・・・・・・・・・・・恐喝，暴行，傷害

3　いじめの四層構造



4　開発的生徒指導

相談には勇気がいる　←　この２，３ヶ月でインナールールを高めているか

①インナールールを高める３つのやり方
　　同一視，理想化，鏡
②SGE・SST・GWT
　　ワクチン友だち

5　予防的・問題解決的生徒指導

すべて表に出す　（教師と生徒でいじめ防止委員会をつくるのもひとつの方法）

日常的・具体的　→　対応的　→　協働的

（小集団で自由に）（意見を出し合って）（みんなで取り組む）

解　説

総合的にトータルで実践すると成果が上がる

６月はポイントの月です。体育会が終わり「ゆるみ」が出やすい時期です。
中学校では，「教育相談週間」が入る月です。いじめ等の問題がないか，予防的な取組をしておきます。
また，集団に対しては「再契約」をして，引きしめます。
そのためにも，まず「契約」しておかないと，再契約はありえません。
４月のうちに，教室のルールとマナーを契約します。この初頭効果は記憶に残りやすいので，効果的です。
学級での居心地のよさは，与えられるものではなく獲得するものなのだということを理解させておきます。
そうして，自分たちで決めたルールとマナーを守っているのか６月に評価し，「再契約」します。

言葉の問題

子どもたちは，悪気なく反射的に「チクチクことば」を使います。禁止指導をしても，なかなか効き目がありません。テレビの影響や今時の風潮が関係しています。マイナス言葉は伝染的で広がりやすいのです。
その反対に，「ふわふわことば」等のうれしい言葉は，なかなか出てきません。だから，すべての教育活動において友だちの「いいところさがし」をしていくことで，プラスの感情を教室に浸透させていきます。
（感情は伝染する。教室の空気を媒介にして）

人権学習「ビーイング」

ここで，人権学習で取り組んだ「ビーイング」という実践について紹介します。
中学校１年生を対象に体育館で行いました。
人から言われてうれしい言葉・・・「心がしびれた（うれしくて）」
人から言われてイヤな言葉・・・・「心が折れた（悲しくて）」
それを意識させる取組です。

このような取組を通して「世論をつくる」のです。みんなの前で発表させたり，宣言させたりすることで，学年全体のルールにしていきます。そのルールは，生徒から引き出し共有するのです。

また，一流の教師は授業をしながら一瞬の判断で，必要な指導をします。この「一瞬の判断」ができるかどうかが重要です。授業は「ライブ！」です。目の前の子どもたちの状況は，常に変化します。ゆるんだと思ったら引きしめ，固い雰囲気ならほぐす・・・子どものちょっとした態度を見逃さずに，必要な指導を入れていきます。

ここでは，重枝先生が指導しているビデオを見ました。それぞれ個人で，言われてうれしい言葉，イヤな言葉を書いています。その時に，ひとりの生徒が，となりの人が何を書いているのかのぞき込みました。すると，すかさず重枝先生のきびしい声がとびます！「自分でやれ！！」

一瞬で，場の空気がピリッとします。緊張感が走ります。その後は，黙々と全員が集中していました。

その一瞬を見逃すと，集団の雰囲気はゆるんでいきます。渇を入れる絶妙なタイミングがあるのです。

また，模造紙やマジックを配布する場面がありました。

結構，先生方は気を利かして，自分で配ってしまいます。でも，ここではあえて，生徒同士に調整させて配らせていました。最初は時間がかかっても，だんだんスピーディーにできるようになります。先生がしてしまうのは簡単ですが，あえて生徒にさせて，ほめるようにします。生徒が主体的に活動するようになるには，このような小さなところからの積み上げが必要なのです。

スピーチ力を上げるには

スピーチ力は，中学校３年間をかけて上げていくというビジョン（見通し）をもちます。教師のスタンスとしては，「聴く」にこだわります。「聴く態度」がよいと，スピーチ力は上がっていきます。まわりがいい顔で聴いているか，そこにこだわります。

また，スピーチは，本人が満足していても，伝わっていないかもしれないということをおさえます。つまり，「聴く」と「スピーチ」はセットです。どちらも，相手意識が重要なのです。

まわりが「聴いてくれる」と話しやすい。相手に「伝わるように話す」と伝わる。それを意識させます。

ストレスは弱いところに流れる

ペアを組んで，正対して相手を見つめます。そうすると，人は思わず「笑い」ます。

その時の「笑い」は，防衛反応です。人はうれしい時や楽しい時に「笑う」と思っていますが，自分を守るために「笑う」こともあるのです。

「相手が笑っていたから大丈夫だと思った」と，いじめ問題が起きた後に，よく聞きます。しかし，笑っていたからといって，「大丈夫」ではないのです。このように，「いじめは見ようとしないと見えない」ことを，教師がまず理解しておく必要があります。そうして，「笑う」という防衛反応があることを，生徒たちにも教えておきます。「笑っていたから大丈夫」ではない！ということを。

「いじめ」じゃなくて「犯罪」

いじめが多い場所に共通するのは，「閉鎖的」であることと言われます。教室はそもそも閉鎖空間です。自然とストレスが溜まる場所です。その上，「人の悪口」「されたくないこと」等がその空間で横行すると，中に毒が充満し，心理的酸素（安心感）がなくなります。

学校や学級はそもそも，いじめが起きやすい場所なのです。そのことに気付かず，いじめを放置していると，だんだんエスカレートし，犯罪の域に達していきます。

今の時代，「契約」「再契約」を意図的に結んでいかなければ，いじめは起きるんだというスタンスで，教師は意図的に「予防・開発的生徒指導」をする必要があると思います。

開発的生徒指導

すべての生徒を対象に，すべての教育活動でする「開発的生徒指導」は先手的な取組です。

これは，授業化することができます。

もちろん，何か問題が起きて，その事後指導で行う「問題解決的生徒指導」も，先手的な「開発的生徒指導」も，両方大切です。

この「問題解決的生徒指導」では，どれだけスピーディーに，問題が深刻になる前に指導できるかどうかがポイントになります。これができると，大きなトラブルに発展しません。ところが，生徒はいじめなどの問題が起きていても，教師になかなか相談しません。日頃から，どれだけ生徒と信頼関係を結べているか，この先生になら相談しようと生徒から思われているか，それがいじめ等の早期解決に大きく左右するのです。そして，この信頼関係を高めることが，「開発的生徒指導」のねらいでもあります。

信頼関係を高めるために

同一視　→　一緒に行動することで「共感」が生まれます。例えば，一緒に給食を食べたり掃除をしたりする中で，教師と生徒との人間関係が育まれるのです。

理想化　→　あこがれをもたせることで，信頼関係が生まれます。教師は生徒に「すごい！」と思わせることも必要なのです。理科の実験や体育の実技など，教科の専門性でも部活の指導でもいいので生徒に「あこがれ」をもたせましょう。

鏡　→　「先生は自分を見てくれている」と感じさせましょう。生活ノートへのコメントや日常の中での声かけ等，やり方はたくさんあります。

演　習　１　「いじめのロールプレイ」

生徒にさせるのではなく，教師がしてみせるロールプレイです。見るだけでも，実感できるロールプレイで，九州大学教授の増田先生が開発されました。

「いじめられ役」として１人，「いじめる役」として３人を教師の中から人選します。「いじめられ役」の人の前に，３人並んで立ちます。その３人の後ろに「観衆」として，６人立ちます。席についている人たちは「傍観者」という設定で「いじめの４層構造」をつくります。

言葉でいじめるのは禁止です。目と表情だけでいじめるロールプレイをします。その後で，それぞれにコメントを言ってもらいます。

「いじめられ役」のコメントは，「怖くて目を合わせられませんでした。悲しい気持ちになりました。後ろにいる人たちの方が怖かったです」という内容でした。

「いじめ役」のコメントは，「快感がありました。スッキリしました」という内容でした。

「傍観者」のコメントは，「自分は関係ないから安心感があった」という内容でした。

次に，「いじめ役」の後ろの６人のうち３人が，「いじめられ役」の後ろに立ちます。
そして，最初と同じように目と表情でいじめるロールプレイをしますが，明らかに変化があります。
「いじめられ役」のコメントは，「あまり，怖くなくなりました。目を見ることができました。人が後ろにいると安心し，心強く思いました」
「いじめ役」のコメントは，「後ろに人がいるから視線が分散され，さっきよりは気持ちが弱くなっていました。後ろの人の目線が気になりました」でした。

最後に，「いじめ役」の後ろの３人にも，「いじめられ役」の後ろに移動してもらいます。
そして，同じロールプレイをしますが，「いじめ役」の３人の先生方の表情が最初とはまったく違っていました。心細そうな表情です。結局，「いじめ役」がどんどん苦しくなるロールプレイになりました。

このロールプレイは，「観衆・傍観者がいじめられている人の味方になり，それが増えるといじめが止まる」ことを実感できます。ちょっとした自分の行動が影響することを理解させることは，いじめ防止につながります。笑顔の裏を表情から察知して，全員の責任を自覚して「いじめをなくそう」という空気を生むために，学級の実態に応じて実践してください。「いじめは見ようとしなければ見えない」のです。

演　習　２　「色えんぴつ忘れちゃった」

このＧＷＴは，１５分くらいで出来る内容です。
ＧＷＴの目的は
１　協力のよさに気づく（やっただけでも味わえる）
２　他者のよさに気づく（振り返りが大切）
３　自分のよさに気づく(振り返りで発表を聞いて，自分のよさに気づいていく）

《ねらい》
○　一人ひとりが自分の持っている情報を正確に伝え，正しく聴くことの重要性に気づく。
○　多くの情報を集めてまとめるときの，グループの協力の大切さを学ぶ。

《準備》
・色えんぴつ（赤・オレンジ・ピンク・黄・黄緑・緑・水色・青・紫を１グループ１セット）・下絵（1 グループ１枚）・情報カード（1 グループ１セット）・正解・振り返りシート
・情報カード№24 用の黄緑色の紙（先生の背中用）

進め方

１　班長に下絵，色えんぴつ，情報カードを配る。
２　班長がメンバーに色えんぴつと情報カードを配る。
３　説明する。

「まあくんとさっちゃんは，ぬり絵をしようと思いました。でも色えんぴつを忘れてしまいました。そこで，みんなが二人のかわりに色をぬってあげましょう」「何色をぬるかは，これから配る情報カードを調べていくとわかります。そのときの約束があります。自分がもらったカードは人に見せてはいけません。言葉で伝えます。自分が持った色えんぴつは，自分だけが使えます。人に貸したり，ぬってもらってはいけません」

４　エクササイズ
５　正解発表
６　振り返りシートの記入
７　発表・まとめ

小グループをつくって体験しました。それぞれが情報カードに書かれている内容を伝え合い，どんどん色をぬっていきます。お互いの情報をつなぎあわせると，何色なのかがわかってきます。さらに，重枝先生の背中にはってある色もヒントになっていることに気づきます。その時は，「発見したぞ」という，心はずむような嬉しい気分になりました。
他にもまだ，このエクササイズには，情報をつなぎながら「発見」しないと解けないポイントがあります。それを，グループで協力しながらみつけたときには，嬉しさがこみ上げてきます。子どもたちにも，「協力するって楽しいな」「人とかかわり，情報を共有することで解決できるんだな」ということを実感させることができる活動です。

教育センターのホームページに指導案を載せています。中学校１年生の特別活動の授業です。ぜひ，それも参考にしながら実践してみて下さい。

本日のキーワード

○　開発的生徒指導（インナールールを高める）
○　予防的・問題解決的生徒指導（日常的・具体的→対応的→協働的）
○　いじめの四層構造

♪　学習会に参加された先生方の感想　♪　（参加人数　５０名）

・毎回，来てよかったと思う内容です。元気が出ます。そして，若い先生たちにぜひ参加して学んでほしいと思って，声をかけて一緒に来ています。一緒に来ている先生方が帰るときには笑顔になっているのを見て，こちらもうれしくなります。

・一度きいたお話も，やったことのあるエクササイズも，いつも新鮮な気持ちにさせられます。なるほど！と思います。私の方まで「再契約」していただいている感じです。エクササイズやロールプレイをしている中の重枝先生の生のコメントが一番勉強になります。また，このようなお話が聞きたいです。私たちが実際に生徒になったように活動し，そのときの先生の声かけを学ぶことができるのが，最高に勉強になります。

（風土会には，学びたい！という思いをもった先生方が，あちこちから集まってくださるのですが，上記のコメントは，いつも遠くから来ていただいている福岡市以外の先生方からです。いつも参加していただいてありがとうございます）

・「学校は，人とかかわり人生の免疫をつける場所」という言葉にしびれました。子どもたちが，「がまん」「忍耐」「思いやり」「感謝」「感動」をたくさん経験できるよう取り組んでいきたいです。

・いじめのロールプレイで「観衆役」の６人のうちの１人をさせていただきましたが，「いじめをストップさせる構図」を本当に実感できました！それと，指導はタイミングが大事ということは分かっていたつもりでしたが，今日，再確認しました。私は毎年，受けもつ学級を「管理型」にしてしまい，何だか子どもの個性を発揮させきれていないような気がしてなりません・・・。でも，学級が集団である以上「規律」は大切だという思いも強く，いつも「規律」と「自由さ」の間で悩んでいます。

・最近，学級の子どもたちの言葉遣いが気になっていたので，今日の学習会の内容がとても参考になりました。また，子どもたち同士の関係をよりよくしていきたいと思っていて，何かよい活動はないかと考えていました。今日教えていただいた GWT「色えんぴつ忘れちゃった」は，私自身も体験して楽しかったので，ぜひ学級でもさせていただきたいと思いました。

（上記は，小学校の先生方からの感想です。昨年ごろから，小学校の先生方の参加が増えています。とても嬉しく思っています。風土会での学びを，それぞれの学校に「発信」してください！）

・本当にこの時機にジャストミートした話題でした。新しい学年になり，体育大会が終わったあたりから慣れが出始め，それが悪い方にルーズになりがちでした。授業を受ける姿勢や掃除や給食の様々な場面で，再契約をしていかなくてはと，振り返ることができました。

・今日の学習会で一番グッときたのは，重枝先生が指導されている DVD です。途中で「自分でやれ！」と個人で考えている時間に注意している場面です！「なるほどっ」と思いました。そういうタイミングを逃さないことが大きいと思いました。いかに子どものハートをつかむことができるか。どう関わればよいのか？どんな話し方で，どんなことを語れば伝わるか・・・日々悩んでおります。

・いじめのロールプレイが印象的でした。傍観者でも空気が変わったことがわかりました。「いじめは見ようとしなければ見えない」ということを，しっかり心に留めて生徒とかかわっていきたいと感じました。

（「いじめ」を生まない学級・学校風土づくりを学んでいるのが「風土会」です。それが，「開発的生徒指導」です。「学級風土」＝「学級の雰囲気」＋「学級文化」・・・文化は意図的，計画的に築きます。そこに，教師の「ビジョン」をもった「実践」が必要なのです。それを支える「理論」。一緒に学びましょう！